

弔 辞

東海林勤先生が亡くなられたとの報に接し、非常に大きな悲しみを覚えております。東海林先生は、平和、正義、そして一致のために生涯を捧げられ、日本や世界中のエキュメニカル運動のために飽くことなく働き続けられました。そのお姿は、常に私たちを鼓舞し続けてくださいました。

とりわけ私共は、先生が1978年から85年に日本キリスト教協議会の総幹事であられた時に、韓国の人権、民主主義、そして平和構築のために、身を粉にして重要な働きを成し遂げてくださったことを、深く記憶にとどめております。さらに、先生は差別と偏見にさらされる在日韓国人と連帯し、共に闘ってくださったことを忘れることはできません。

先生を失ったこの悲しみのただ中であっても、東海林先生が指導者として、また証人として、日本、韓国、アジアそして世界のエキュメニカル運動を豊かなものにして下さったことを、神に感謝せざるを得ないのです。

先生の魂が神の平和と栄光のうちに安らぐことができますように。そして先生の思い出が長く語り継がれますように。

この悲しみの時、神の平安がご家族の皆さんと共にありますように。

「わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。」ローマ書 14:8

韓国基督教教会協議会
総幹事 李 鴻政 (イ・ホンジュン)